

様式 2

平成26年度第 5 回安曇野市子ども・子育て会議 会議概要

1	審議会名	平成26年度 第 5 回安曇野市子ども・子育て会議
2	日 時	平成27年1月27日（火） 午前10時から午後12時まで
3	会 場	穂高支所 大会議室
4	出 席 者	古林委員、清水委員、吉田委員、荒深委員、田中委員、望月委員、 依田委員、山下委員、大浜委員
5	市側出席者	飯沼福祉部長、高橋健康推進課長補佐、小笠原社会教育担当係長、大澤学校教育 課長補佐、藤澤学校教育係長、堀内子ども支援課長、竹田子ども支援課長補佐 黒岩保育担当係長、浅川児童係長、丸山主査、
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	1人 記者 1人
8	会議概要作成年月日	平成27年3月2日

協 議 事 項 等	
1	会議の概要 1. 開 会 2. 会長あいさつ 3. 議事 ＊前回会議内容（会議概要等）の確認（説明：事務局） （1）計画素案の最終検討 （2）今後のスケジュール・委員個々の意見及び感想 4. 福祉部長あいさつ 5. 終 了
2	協議概要 1. 開 会 （進行：副会長） 2. 会長あいさつ 皆さんの協力により無事にここまで来ることができた。家庭教育の重要性、子ども の健全な育ち、子育て家庭を力強く支援していく計画にしなければいけない。 〈以下、議事 会長の進行にて〉 3. 議事 ○会長 まず、第 5 回会議の協議事項に入る前に、昨年 9 月に開催した「第 4 回会議」での検討 内容の確認として、事務局から前回会議概要の報告を。 ○事務局 前回会議内容（会議概要等）の確認（説明：事務局） ○会長 それではただいまから第 5 回会議の協議事項に入る。 本日は今年度の最終会議と位置付けている。本日の会議内容は次の 2 点。 1 点目は、本計画の素案についての最終検討。 まず、12月から 1 月にかけて実施したパブリックコメント（意見募集）の内容と、市と しての見解を事務局から報告を。 その内容について、意見・質問をいただき、必要に応じ素案の修正などを行い、最終的 な方針決定としたい。 1 点目の審議が終わったところで、10分ほど休憩時間を設ける。休憩ののち、後半は、 今後の日程及び方向性等について、事務局から報告を。そののち、委員各自から意見や感 想をいただきたい。 子ども・子育て会議委員の任期は 2 年。この 5 回にわたって委員を務めた中での感想、

意見などをいただき、来年度以降の審議をより深いものにしたい。

それでは議案①「子ども・子育て支援事業計画（素案）の最終検討」に入る。事務局から説明を。

○事務局

議事①「子ども・子育て支援事業計画（素案）の最終検討」（説明：事務局）

○会長：質疑応答の提案

では、事務局から説明のあった議案①「子ども・子育て支援事業計画（素案）の最終検討」について、何かご質問・ご意見等があれば挙手を。なお、ご発言の際はお名前を。

○会長：採決

（意見、質問なし）では、柔軟性をもちながら来年度出発していくということでしょうか。

■了承

では、ひとり5分くらいを目安にご意見、これから会議の中で審議していきたい事項などを出していただきたい。名簿順での発言を。

○A委員

今回、小中学校PTA安曇野市連合会の役員として会議に出させていただいた。

自分は、保育の認定区分・次世代支援行動計画などの専門的な事業自体が把握できていない部分もあり、お役に立てたのかどうか疑問に思う点もあるが、自分を含め、子育てする親が助け合える関係のある社会や街ができればいいなという願いを強くもっている。来年度に向け、今後も協力できることがあればさせていただきたい。よろしく願い申し上げます。1年間ありがとうございました。

○B委員

今まで子育ての現場で働いたり、民生委員として勤めさせてもらっている中で、今回の会議を通し、自分の考えていること、考えていかなければいけないことなど勉強させていただいたと思っている。改めて感謝申し上げます。

パブリックコメントについても、非常に丁寧に受け止めていただいて、本当にうれしく思った。

次に、この計画の周知方法について感想などを述べたい。

4月以降に広報紙やホームページなどで具体的に原案を周知していくとのことだが、私の周囲の保護者の方から、「非常に掴みづらい・紙の文章ではわからない」と口頭でよく質問を受ける。答える側の私自身もよくわからない部分があるというのが現状である。そういった点からも、広報紙やホームページに加えて「説明会」のようなものを希望したい。自分の子育て、自分のお子さんに責任を持った施設選びというか、自分たちの家族計画等いろいろあると思うが、そういうのも含めて、人の意見でなく保護者自らが自分の子どもに責任もってどこの保育園に入れるとか、どういうふうに行政サービスを利用していくといった考えをしっかりと持てるようにしていければと感じている。

3点目。各事業の推進は来年度以降になると思うが、保育に関する取組の方向について。「柔軟に・幅広く」というような「見えづらい言葉」であって具体的ではない印象がある。もう少し具体的にしていかないと子どもたちや親のところに届かないと思う。母親に子どもが宿り、そして誕生、その後は地域でどういうふうに繋がっているか、保育所はどこにしようか、入学したら学童保育をしなきゃならない、そろそろ働かなきゃならない……。経済的に厳しい家庭も多いという中で、その一つ一つが非常に大切になってくると思う。今後に期待をしたい。

会議では、「保育士をたくさん確保する」「知識向上に努める」等、たくさんの素晴

らしい提言をいただいているが、具体的な中身がないと、子どもや親の心に届かないと感じている。その点は具体的に今後期待するところである。

それと、一番欠けているのは、つながりということなのですが、先ほどからお話させてもらっているように、地域のつながりはもちろんですが、どこへ行ってもいいかわからないというお母さんもいるので、困った時にここへ行けばいいんだということもわかりやすく、そしてそれがここだけでなくつながっていく、健康センター、教育委員会、保育所、すべてのところで非常に充実して議論されていると思いますが、子どもたちの思いというか、親の成長していく段階があるわけですね。それがどこまで、お母さんたちもわかりやすくつながっていけたらいいなというところをいつも、本当に何十年前から私はつながりという言葉で定義して、そのところが解決できない問題でありましたので、今回こういった子育てに踏み切ったこの機会につながりということをしつかりと市民にわかりやすく、親にわかりやすく、保育の現場で働いているが、温かい繋がりが必要だと思っている。2年任期として、来年もお世話になりたいと思います。よろしくお願いします。ありがとうございました。

○C委員

1年間お世話になりました。今回保育所の代表として、この場で色々な意見を聞かせていただいた。保育所のことしかみえていない部分が随分あったが、安曇野市が生まれてくる子から18歳の子ども達が、成長していく中で、「どういうふう to 子どもたちを育てていくのか」「どういうふうに見ていくのか」ということで、本当に制度を変えて、刷新するということで、この会に参加できたことを大変光栄に思う。この場で意見を聞かせていただき、大変勉強になりました。私は保育園にいますので、この十数年の間では、子どもの姿はやはり環境や親の姿、すべての中で住みにくい、特に私の個人の感想としては、やはりスマホで子守りをさせるというのは、問題にされているのですが、それを良しとするマスコミの中でCMとか、そういうものの中で、みんながやらなければいけないとか、やっていかないと遅れてしまうとか、刺激を与えると子どもたちがすごく喜ぶんですね。でも、そういうことをひとつひとつ丁寧に現場の中で伝えていかないといけない立場なので、そういう形で伝えていく、でも一番もことになるのは安曇野市という形で、皆同じ視線の中で共有しながら、子育てをしていかなければならないということであるならば、これからの新制度を真剣にもっと考えて、予算のこともあると思います。その中で、新制度整える形の中で進めていくのはお金の問題だけではないと思う。今こそ安曇野市として子どもをここで育てて本当によかった、この環境の中でよかったと思えるような、子育てをしていかないといけないのではないかと。それは本当に現場として強く感じています。18園と公立保育園と公立幼稚園の地位ということで、これから審議していくわけですが、子育て新制度の子ども園という形を公立としてどういうふうにしていくのか。国の流れに乗りながら行ってしまうのかということに私は迷っている部分もあります。保護者の方々もまだ何もわからない状態で、保育士もまるでわからない状態で突き進んでいて、子どものために、子どもの目線で、もちろん親のサービスや親の支援も大事になって思うのですが、やはり子どもの目の高さに立ちながら、どういう子育てをしていくかということはこの審議会を通して皆で考えていけたらいいなと思っています。微力ながら参加させていただきましたけれども来年度も引き続き参加させていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。ありがとうございました。

○D委員

安曇野市子ども・子育て会議に参加しまして、お役に立てなかったのではないかと考えております。幼児教育は今後、激動の時代に入ってくると思います。安曇野市の方針に沿って幼稚園も動いていくわけなのですが、幼稚園も1園のみということで、教育委員会からも●補助しっこうという形になっていると言われております。ですので、これからの課題が山積みでございます。ただ言えることは、子どもの支援、子ども第一に考える安曇野市であってほしいなと思います。任期が2年ということで

ございますけれども、来年度もよろしく願いもうしあげます。ありがとうございました。

○E委員

質疑の段階でお話しできなかったのですが、素案の10ページ、計画保育提供区域というところの4行目に、地理的条件、人口、交通時など書いてあるのですが、これは交通事情ということですね？ 訂正お願いします。それから、思いを出させていただけます。15ページの、幼児期の教育保育についてというところの、基本的な認識っていうところなのですが、これからの計画を進めていくにあたって、この基本的な認識っていうところを皆が念頭に置いて、やっていくことが大切だと思います、ただ、この文書ですと、人によってイメージがそれぞれだと思います。ですので、17ページにあります、取り組みの方法の①の2番目にあります職員の研修っていうところですが、そういうところで、共通理解できるように働きかけていかなければならないかと思いますが、15ページの基本的認識のところ、すべての子どもがとあって、すべての子どもが発達段階に応じた幼児期の教育・保育を受けることができるよう、これは、とても重要でやらなければいけないことなのだと思いますけれども、発達段階というのは一人ひとりが違うので、一人ひとりに合った教育・保育を受けることができるようにするということはとても難しいものだと思います。ですけれども、これはやっていかなければいけないことだと思いますので、ここをやっていくことで、また小学校、中学校、高校というふうに大きくなっていく中で出てくる問題とかも解決につながるかなと思いますので、ぜひ、丁寧に考えていけたらと思っています。それから、長野県のほうでは現在、信州型自然保育認定制度というものを検討しています。来年度からそれが始まる予定です。これは信州の豊かな自然の中で子育てをしていくということが、子どもたちの育つ中で重要な体験であるということから、推進するものがあります。県でも、この研修っていうものを、公立園とか私立園とか、認可外とか、そういう枠を超えて、研修を受けられる機会をつくっていかうと考えていますので、安曇野市もぜひ、信州型自然保育というところに理解をしていただいて、県とともに歩んでいただけたらいいと思います。安曇野市にも公立園だけでなく、認可外保育施設で、やはり一人ひとりの子どもに合った幼児教育というものを受けられるようにというふうにしている団体がいくつもあります。ですので、こういう研修の場というのが安曇野市全体の子どもたちのことを考えて、やっていただけたらいいなと思います。それから、すべての子どもたちが教育・保育を質の高いものを、受けられるようにということもあるのですが、やはり、幼児というのは健康面もありますので、ぜひ、健康診断なども平等に受けられるように考慮をお願いできたらと思います。以上です。

○F委員

一般公募で選んでいただきまして、この場に1年間勤めさせていただきました。私は和歌山県からIターンしてきたもので、ようやく3年たちました。やはり、住んでみて、安曇野のよさも十分理解してきております。それと反面、安曇野市ってこういうところだったのだと気づく点もたくさん出てきています。私はまだ、行き来しているのですが、うちの家族はこちらでずっと戸籍を入れて、こちらで活動しています。長女が来春から保育士として勤めるようになりまして、私の家庭の中にもそういう環境があったということもこの会に参加したかったひとつの要因となっております。1年間通じて、安曇野市の今後の保育のあり方をみなさんと勉強したと思っています。私は建築士としての立場をとるのですが、やはりメンタル面、子どもに関わる環境のことをもう少し勉強してみたかったというのがありまして、今回応募にいたったきっかけであります。1年間通じて素案はできたと思っています。ただ、これからが一番大切な時期で、パブリック・コメントも聞きながら、全体の構想の概略ができた。これをいかに市民に広報していったらいいか、理解していただけるか、わかりやすい提案をしないと、難しい羅列ではなかなか理解いただけないと感じております。なので、A4版の前に出された概要版とおっしゃいましたね、それをもう一度練って

いただきまして、市民一般の方から理解できるのかをもう一度、お考えになって、よいものにしていただきたいと思います。実は私たち子どもが4人おりまして、安曇野市には毎年のように出かけてきたというのが、この移住のチャンスがあったということです。それと私は美術館とかが好きで、高知県のアンパンマンミュージアムを家族で訪問した時に、階段の下にポスターがあったのに気を留めています。これが何かと申しますと、いま、テレビで人気のあるキャラクターが5人うつっておりますね、正面を向いて子どものほうに訴えかけておりました。その中に書かれた言葉が、僕たちは君たちに夢を与えるために生まれてきたのだ、という言葉がありました。これに本当に感動しまして、やっぱりキャラクターというのはそのために生まれてきているのであって、それを生み出した作家というのはすばらしい心を持っていると思っています。なので、我々もそういう気持ちをもって子どもに接していく、そういうチャンスがあるので、これから子どもたちのために、安曇野市のために、一役買っていただけたら幸いにございます。1年間ありがとうございました。

○G委員

私も公募でこの場に加えていただきました。1年間おつかれさまでした。本当にここから、今までは数字だったり文献だったりということで、楽しい会議ではなかったです。やっとできたのがこれからこれを具体的にどう取り組んでいくかというところが大事だと思いますので、これからを楽しみにしております。この素案はできましたけれども、これを使ってどうやって運営していくか、まだまだ、今までもそれぞれの立場で一生懸命取り組んでいただいているとは思いますが、不登校の問題とか、ありまして、例えば認可外保育園、内容がすごいことやっているのを私も知っているのですが、地域を変えた時にまわりの子とどうなのだろうとか、それが小学校にあがった時にハードルになってしまったりということもあったりするかと思っています。そういうところへの支援を市としてどういうふうにしていくのか、小学校から中学校、小学校はなんとか通えていたけど、中学校に上がったらず立への拠点という意味もあって、それについていけなくて不登校になってしまう子どもたちも、私児童養護施設で働いておりますので、そういう子たくさん見ております。不登校の問題とか、地域の育成会っていうのも素案の中に少し出てきていましたが、私の地元では育成会ありますけれども、役員が来年は2人、持ち回りでやっていて、もうやつつけ仕事になっています。子どもを健全に育てようっていう熱意が残念ながらあまり感じられなく、子どもは遊んでいるだけ。これで育成？と感じています。私のできる場では入って行って子どもたちと一緒に体験したり、子ども育てるようにはするのですが、そんな実情も踏まえて、それから、子どもが健全に育つ場をつくっていききたいと思います。それと、いまさっき、認可外保育園の話が少し出ましたが、やっていることは本当にいいことやっているのです。それで、ここにいらっしゃる藤原さん、依田さんのところは保育関係者の中では全国的に有名なところでいろんな視察も受けているし、そういう魅力のある地域の資源でもありますよね。こういうのをもっとアピールというか、知っていただけるように、それが移住したい、安曇野の子育て環境ってすごい魅力的だからそこへ住みたいという人たちが多くなって、それを受け入れる受け皿もできてということになったら、本当に楽しい安曇野になるなあという夢を描いています。そんな、楽しい話をこれからしていきたいと思います。来年もよろしくお願いします。

○H委員

私は市内10校の小学校、7校の中学校の代表として委員会に参加させていただいた。テーマが「子ども・子育て支援事業」であり、事業が中心になって話が進められた感があった。

先ほど、「子ども第一の企業になってほしい」というお話があった。私も子どもの視点からまず考えると、子どもというのは親の愛情を受けて、そして自分が認められるというようなところが、子どもの気持ちではないかと思う。したがって、形が先なの

か、でも安曇野市とすればどんな子どもを育てたいのか、あるいは子どもの心が育つ事業であってほしいな、これが先でいろんな事業があってほしいなということも、子どもの視点から考えるとそんなふうに思いました。一人の子どもがいろんなこの地域の機関で大きくなっていく、そう考えると、ある時はこういう考え方で、また違ったらこういう考え方でという話もありましたけど、そうではなくて、安曇野市はこういう子どもを育てたいのだよってという一貫した何かがあって、互いに事業が進められるのが●とうきゅうじゃないかなと、立場上そう思いました。だから実際、学校に行くと、子どもには3つの顔あるねというようなこと言われます。本来だから一つの顔であってほしいなと思うわけですけど、家庭で見せる顔と、それから学校で見せる顔、それから友達の中で見せる顔というような形で発達段階においていろんな顔を子どもたちは見せていくのだけれども、でも、今実際いろんな顔があるよと。抽象的な話をすると、3つの顔という話になりますけど、たとえば家庭で見せている顔が、お父さんやお母さんに気に入られたいので非常に気に入られたいような顔をしている。でも学校へ行くと今度は逆に家のストレスが出てしまっている顔を見せる。で、今度は逆に友達同士ではやはり自分の位置関係があるので、また家庭でも学校でも見せない顔を見せているというような子どもたちが育っているという形では困るなど。やはり子ども中心の、子どもの心が育っていくようであってほしいなということが一番思いました。ということで、親の立場からすると、子どもを出産して子どもを育てるために事業がある、ではなくて、やはり自分が育てるために色々な形で協力していただいているという姿勢で親もいろんな事業を使ってもらいたい。だから、街並みに色々な携帯電話だとかスマホだとかいう話もあります。実際小さい子どもたちに話を聞いてみると、家庭でごはんを食べる時間があるのだけれども、でも、お母さんは携帯に夢中で子どもとの会話はそっちのけっていうような形で。そして仕事第一でそこに子どもがいるのがわからない。そして自分の仕事に行ってしまう。あるいは子どもを迎えに行っても、その日のことを聞くのではなくて、早く帰りなさいよという形で子どもをもののように扱っているという形ですので、親としても色々な事業にお世話になって、そして自分の子どもを育てていくという自覚をもって、色々な諸事業にあたってもらいたいなど。また、預かる側も、先ほどからそれぞれの委員の先生方が話をされていますけれども、これからコストが非常に少ないので、多くの子どもたちをひとつの狭いところでという考えとか、人件費を節約するために、委託のところへ出してしまって、そして子どもをという形ではなくて、地域の子どものたちの預かる側のモラル、そういう常識みたいなものも考えていかなければ大変だと思います。地域の子どもたち本当に健やかで、安曇野でよかったなど、そういう子どもが育っていくように親としてもまわりにしても心していく必要があるのかなと思いました。

○I 委員

それぞれ思いの熱いお言葉をいただき、本当に来年度に期待したいと思う。

私自身も子どもと話をしたり、保護者の方と面接したりということが主な仕事としている。ぜひ、子どもを中心にした家庭を私達から力強く応援していくという形、それと行政と一体になって、胎児期からの子育てということで、支援が切れることなく皆で応援していけたらと強く思う。今日はありがとうございました。

○会長

それでは、本日の審議内容全般に関して、何かあれば挙手を。

(挨拶) それでは以降の進行を副会長に戻します。

閉 会